第78回

満月の夜開くけいはんな哲学カフェ

ゲーテの会

「新しい文明」の萌芽を探る

日本と世界の歴史の転換点で、転轍機を動かした「先覚者」の事跡をたどる

科学・技術

ゲノム解析から探るヤポネシア人の起源と成立

［講　　師］

斎藤 成也　国立遺伝学研究所集団遺伝研究室 教授

1957年福井県鯖江市生まれ。1979年東京大学理学部生物学科人類学課程卒業。1986年テキサス大学ヒューストン校博士課程修了。東京大学理学部生物学科助手、国立遺伝学研究所助教授を経て、2002年国立遺伝学研究所集団遺伝研究部門教授（現職）。総合研究大学院大学生命科学研究科遺伝学専攻教授、東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻教授、琉球大学医学部先端医学センター特命教授を兼任。2005～2014年日本学術会議会員。文部科学省新学術領域ヤポネシアゲノム領域（2018～2022年度）代表。

［講演要旨］

数万年前にヤポネシア（日本列島）に人間がはじめて移り住み、その後縄文時代となりました。この人々が第一次渡来民です。斎藤（2017）は、大陸沿岸の漁業を中心としていた「海の民」が稲作農耕民に圧迫されて、約４５００年前以降に日本列島に移り住んできたという仮説を提唱しました。この第二次渡来民は、それまでの先住民とは遺伝的にかなり異なっていました。約3000年前以降に、水田稲作を九州北部もたらしたのが第三次渡来民です。この「三段階渡来説」は、埴原らの二重構造モデルを修正したものと考えることができます。第二次と第三次の渡来民が遺伝的に近縁なので、かつては区別できなかったものが、膨大なゲノムデータによって区別できました。第二・第三の渡来民のゲノムの違いと住み着いた地域の差によって、九州北部から山陽、近畿中心部、東海、関東中心部をつなぐヤポネシア中央部に「うちなる二重構造」が生じたと考えています。

［参考図書］

ご講演の内容の理解を促進するために次の図書が有益です。

『核ＤＮＡ解析でたどる日本人の源流』斎藤成也（2017）河出書房新社

どなたでも
ご参加いただけます。
ぜひ、お誘いあわせの上
ご参加ください。

日　時　2020年1月16日（木）　18:00～20:30

会　場　国際高等研究所コミュニティホール
〒619-0225　京都府木津川市木津川台9丁目3番地

参加費　2,000円（交流・懇談会費用を含む）

定　員　40名（申し込みが定員を超えた場合は抽選）

申し込み　ホームページからお申し込み下さい
https://www.iias.or.jp/communication/goethe

締　切　2020年1月15日（水）

けいはんな「ゲーテの会」とは…

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋的文化を総合する」ことにあります。
研究所の庭園にあるゲーテの胸像はその理念のシンボルです。満月の夜は国際高等研究所で、人類の未来と幸福、そしてけいはんな学研都市について考えてみませんか。

お問い合わせ
ゲーテの会事務局
Tel : 0774-73-4000　e-mail : goethe0828@iias.or.jp
主催：公益財団法人国際高等研究所

公益財団法人
国際高等研究所